

阪神大震災や旧ユーゴスラビア紛争の救援活動など、今年のAMDA（アジア医師連絡協議会）の活躍は目覚ましいものがあった。今年十月に正式にAMDA日本支部事務局長に就任した近藤さんの初仕事は、災害救援

△3▽

95ひと  
表舞台  
裏舞台

ネットワークづくりを目指すAPRO（アジア太平洋緊急救援機構）フオラムの開催だった。それまで勤めていた笹川平和財団で知り合った実績のあるNGOに声をかけ、AMDAを中心とした救援医療ネットワーク

クづくりに奔走した。フオラム中にインドネシアで大地震が発生し、早速、同国赤十字とAMDAの医師が関西空港から救援に飛び立つハプニングもあった。

に会社の車が売れば国は発展するんだと信じていました」と話す。仕事で回ったアジア諸国でスラム街の現状を目にし、少しずつ心境の変化が現れたという。「車で街を通ると子供たちがたくさん寄ってきて物を

ねだる。自分にとっては衝撃的な光景でした。自分の姿と対比し「平等」という言葉が頭に浮かんだ。募る疑問に答えを求めため

AMDA日本支部事務局長に就任した近藤祐次さん42

出身はか

途上国の子供の姿

つでの炭鉱の町、福岡県大牟田市。三池争議の最中で、経済状態は苦しく「四世帯に一つの水道しかない長屋に住んでいた。裸足で登校する子どもいた」という。「程度の差はあるけれど、途上国



AMDAのかじ取り役として手腕を奮う近藤さん

自分の幼いころ重ね

の子供を見ると、自分の小さいころを思いだすみたいで……」。笹川平和財団では世界各地を訪れ、資金援助をするNGOを視察する仕事を担った。出会ったNGOは約三百五十団体。

AMDAなどが昨年初めて開催した「おかやま国際貢献NGOサミット」に参加してもらえ海外NGOを紹介した。それ以来、良きアドバイザーとしてAMDAにかかわり、請われて事務局長に

就任した。これからの大きな仕事はAMDAの財団化。教育、女性、環境、職業訓練の四つの柱で活動を広げるAMDAのかじ取り役として手腕を奮う。「専門家が十分とはいえ

◆メモ  
国連NGOの認定（カテゴリーII）、国連プロトコス・ガリ賞の受賞など、AMDAは世界のNGOとして大きく飛躍した。今年、阪神大震災やサハリン地震ではいち早く救援に駆けつけ、機敏な行動力に高い評価をうけた。国際貢献活動のポートを要請する「AMDA国際大学」（仮称）の設立、国連の場で政策提言できる国連NGOカテゴリーへの昇進など、AMDAの夢はさらに膨む。

ない日本のNGOは欧米に比べるとまだまだ。AMDAは組織強化が必要」と課題を述べる。「援助される側にもプライドがある。それを忘れてはいけない」。相互扶助。一語気を強めてAMDAの理念を口にした。（比嘉 一隆）